

タテ科 イヌタテ属

ミゾソバ (溝蕎麦)

Persicaria thunbergii (Siebold et Zucc.) H.Gross

自生環境

水辺、湿地 など

原産地

日本在来

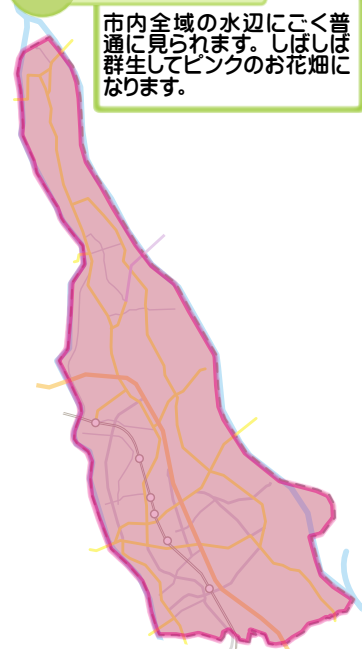
生育を脅かす要因

(今のところ特になし)

身近な場所にごく普通で、今のところ絶滅の心配はありません。しかし目の敵にしすぎるのは考えもの。地域に咲く野の花として、やさしく見守る気持ちを大切にしたいところです。

市内の分布状況

市内全域の水辺にごく普通に見られます。しばしば群生してピンクのお花畑になります。



特徴

- ☆ 水路や湿地、河川敷などの水辺環境に生え、しばしば群生します。秋になるといつせいに開花し、水辺はピンクのお花畑になります。ひとつひとつの花も可愛い形をしています。
- ☆ 花びらは根元は白色ですが、先のほうがほんのりピンク色になっています。色の濃淡は個体差があり、濃い紅色のものから純白のものまでさまざまです。花びらは花が終わった後もそのまま残ってタネを包むため、色は長く楽しむことができます。
- ☆ ミゾソバの仲間は、葉のかたちなどの見た目のちがいがいくつかの変種に分類されていましたが、近年、染色体数を調べた結果、分類が見直されています。もしかしたら市内のミゾソバも、調べるといくつかの種類が混じっているかもしれません。

牛の顔みたいな葉

ミゾソバの名前は、溝のような湿った場所に生えて、雑穀のソバにバツと見の姿が似ていることから来ています。一方で、葉のかたちから「ウシノヒタイ」という別名も存在します。葉先を下にしてみると、その形がまるで牛の正面顔に似ていることから来ているようです。ミゾソバの葉は、しばしば黒い斑紋が入りますが、これがちょうど牛の目に見えて、微笑ましい姿に癒されます。

花は茎の先で
こんぺいとうのように
かたまって咲く



花びらは先のほうが
ほんのりピンクになる



株もとも
「開かない花」がつく



葉はまるで
牛の正面顔の
ようなかたち



わびちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

